



*Kano H. photography*

フォトグラファー養成講座

ロケーション撮影実習

Presented by  
Kano Hayasaka





# 目次

1

撮影の流れ

2

人物撮影のポイント

3

光の読み方

4

ロケーション撮影のポイント

5

課題



1.

撮影の流れ



# 撮影の流れ

## 撮影までの流れ

- ①どんな場所、シチュエーションで撮るか決定  
(プロフのお客様の場合事前ヒアリング必須)
- ②ロケハンに行ってイメージを固める
- ③撮影

## 機材

- ポートレート向きの単焦点レンズ 50mm 58mm 85mm 135mm
- キッズ撮影向きのズームレンズ 24-70mmF2.8 70-200mmF2.8

大切なのは、自分と相手との距離感。  
※Kanoは単焦点は85mmF1.4か  
70-200 F2.8が好き！





## 2. 人物撮影のポイント



# 人物撮影のポイント

## ピントの合わせ方

- 必ず目に合わせる。

※F値開放で撮影すると、顔の向きが斜めの時に片目にしかピントが合わないので注意！

## 親指AFの利用

- ピント合わせのボタンとシャッターボタンを分けることができる。





# レンズの違い



焦点距離による写りの違いに注意



16mm 超広角レンズ



35mm 広角レンズ



70mm 中望遠レンズ



200mm 望遠レンズ



# 人物撮影のポイント

## 絞り(F値)

- どのくらいボカすか。
- 背景を入れたいのか、入れたくないのか。

## ホワイトバランス(WB)

- 肌が綺麗に見えるのは4500～4700K位。※マゼンタプラス2位。

イメージに合わせて設定する。

例) 街中では3800K位でクールに

ノスタルジック調は日陰モードで



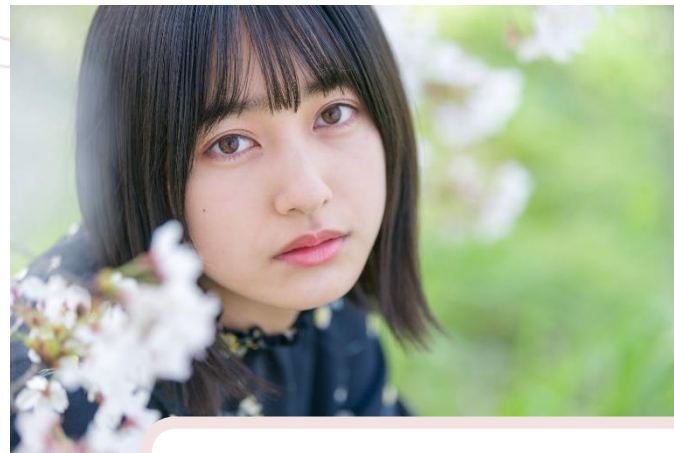




# 人物撮影のポイント

## ハイアングル

- 女性・子供に最適！ 目が大きく可愛く



## アイレベル

- 普通の印象。

## ローアングル

- 全身を足長に写したい時。  
キッズをたくましく撮りたい時。



迷った時は縦・横 両方撮っておく！



# 人物撮影のポイント



## 構図

- ① 主役と脇役が分かるように  
→ 主役が引き立ち、背景がシンプル  
※ボカシを生かす。  
※前ボケは奥行きがでる。
- ② 色味のトーン
- ③ トリミングはしない前提で撮る  
(人によります。正解はないです)





# 人物撮影のポイント

## 背景選びのコツ

- 主役を邪魔する余計なものを入れない
- 緑背景の緑の濃度に気を付ける。  
(光を見る)
- 撮りながら背景の写りに意識を向けること！



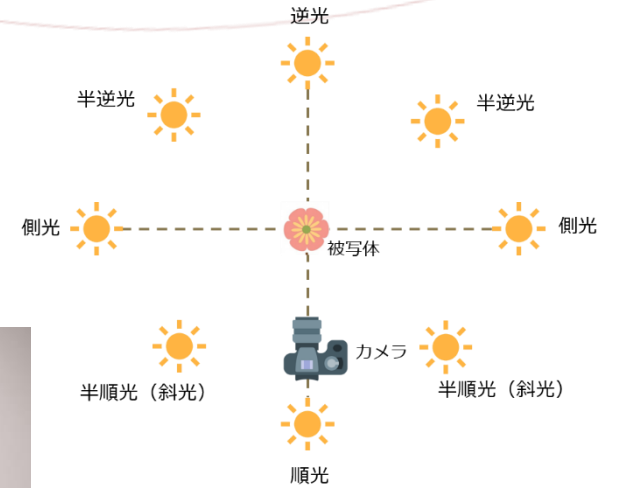
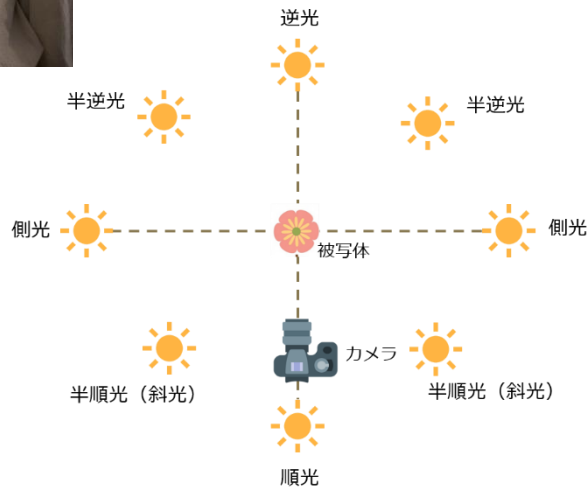


3.

光の読み方

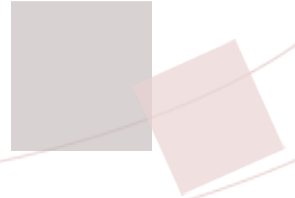


# 光の読み方 - 復習 -





# 光の特徴



## 逆光

- 輪郭がキラキラ綺麗にうつる(ラインライト)
- 人物撮影に最適。(レフ板)

## 順光

- 色が綺麗に表現(青空)
- のっぺりした印象
- 質感がなくなるので人物撮影不向き
- 風景撮影に最適

## サイド光

- 立体感ができるので質感が表現できる。
- 男性のポートレートドラマチックになる。

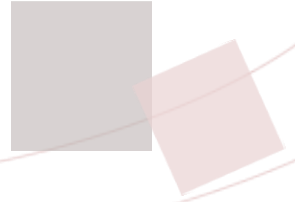




# 4. ロケーション撮影のポイント



# ロケーション撮影のポイント



綺麗な光の場所を探せるかが鍵！

- 動きがある撮影が似合う
- 解放感があるポージング
- 背景の処理に注意
- 時間帯に注意  
(太陽が真上は難しい)
- 緑かぶりに注意
- レフ板がない時は白ハンカチ
- クリップオンの利用







# ロケーション撮影のポイント

## 晴天の場合

- 逆光か半逆光の向きで（レフ、ストロボ）
- 顔にまだらに光があたらないように。木漏れ日注意
- フレアとゴーストに注意。生かす場合はOK
- 木陰を狙う





# ロケーション撮影のポイント

## 晴天の場合

- 晴天より場所を選ばないが、太陽の向きに注意
- 曇りの場合でも木陰で撮ると明るくなる
- レフ板使うなら下から煽るように入れる。

## ※玉ボケの作り方

葉っぱに太陽が反射してキラキラしているところを狙って  
そこを背景にする(逆光で)





# ロケーション撮影のポイント



## レフ板

- レフ板とは、レフの反射光をあてることが目的
- レフ板の使い方
  - ・逆光で暗くなった顔を明るくする
  - ・強い光の影を消す
  - ・**緑かぶりを防ぐ**

白レフ: 自然な光のはねかえしで基本のもの  
銀レフ: 白より跳ね返しが強くコントラストが強い  
金レフ: 跳ね返しに黄色いがかかる  
黒レフ: 反射を抑える





# ロケーション撮影のポイント

## 緑かぶりの注意

- レフを使うことで少し防げる。
- 撮影時にMWBでGを抜くためにMを足す。
- 撮影後に上記と同じころを編集作業でやる。

